

ITU-T SG20 副議長 (WTSA-16 選出 (新任)) 端谷 隆文氏 (富士通) に聞く

【読者のための豆知識】

SG20 (第20研究委員会)の活動内容:
IoTとアプリケーション、スマートシティ

専門領域: ICTと気候変動およびスマートシティ関連の標準化

略歴: 1986年 金沢大学大学院・教育学研究科 理科教育専攻(修了)
1986年 株式会社富士通研究所 入社
2008年 ITU-T FG-ICT&CC 参加 ICTと気候変動標準に携わる
2008年 富士通(株)に異動
2009年 ITU-T SG5 参加 Q18 アソシエイトラポータ就任
2015年 ITU-T SG20 暫定副議長就任
2016年 ITU-T SG20 副議長就任(現在に至る)



— 先のWTSA-16での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちは?

(端谷) ありがとうございます。SG20は、前会期中の2016年5月のTSAGで設立したSGで暫定扱いだったものが、今回のWTSAで正式承認されました。IoTとスマートシティを扱う関係上、大変関心の高いSG(副議長がSG中最多の13人選出)で、副議長に任命されたことは大変名誉なことだと思っております。

— ご担当事項とご経歴、ITUとの係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

(端谷) ITUとの関わりですが、2008年にFocus Group on ICTs and Climate Change (ICTと気候変動に関するフォーカスグループ)が設置されDirect and indirect impact on energy of ITU-T standardsの執筆が始まりました。

このFGの成果を受けて2009年にSG5/WP3 (ICTと気候変動)が設立され、2016年までの2会期にわたりQ18で活動してきました。SG5の前会期中、2013年~2015年にFG-SSC: Focus Group on Smart sustainable cities (スマートサステナブルシティに関するフォーカスグループ)が設立され、社内外で関心の高い分野でしたので全てのFGに参加いたしました。このFGからのSSC関連の継続審議の場が必要、TSAGからのIoT関連の集中議論できる場が必要との提言で、2015年6月のTSAGでIoTとSmart citiesを扱うSG20が発足、日本から暫定副議長として私が任命され、今回、正式に任命されました。

— これから副議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか?

(端谷) 私の関心事はSSCだったのですが、SSCを構築する上でIoTが非常に重要な役割を果たすと思います。IoTに関しては、全世界で非常に関心が高く、産業的にも重要なキーコンテンツです。IoT利用が都市のスマートさいかにインパクトを与えるかを評価するための効率的なサービスを解析したり、ベストプラクティスを収集することなどが重要なテーマだと考えております。

— 副議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか?

(端谷) 中立的な立場でSGをけん引していくことは副議長の役割と認識しておりますが、ICT企業から派遣でもあり、SGでの成果がICT業界全体の活性化、自社の活動にリンクするように活動していければと思います。

— 副議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか?



(端谷) 新任とはいえ、すでに半年以上、暫定副議長としてSG20のマネジメントチームに所属しておりました。本チームは、中東各国の方々に関心が大変高く、弁の立つ方々が多く、その方々が中心に議論が進むという傾向があります。米国からの厳しい指摘ともいえる寄書対応への懸念を表明しても簡単に受け流され、SG本会議では予想通り大変な対応をせざるを得ないこともありました。対処方法は、粘り強いコミュニケーションに尽きるかと思っております。

(写真: SG20議長とのツーショット)

— わが国、各加盟国の政府関係や ICT 産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

(端谷) 総務省、経済産業省が中心となり 2015 年 10 月に IoT 推進コンソーシアムが発足され、2016 年 10 月第 2 回総会では、当初の 700 社から 2400 社程度にまで会員数が大幅に増えております。国内だけでなく、世界においても IoT への関心は非常に大きいものを感じています。反面、ITU-T の活動では日本からの参加者が少なく、中東をはじめ新興国に勢いがあります。標準化することで ICT 産業界の活性化や利用を希望している新興国や発展途上国への進出が容易になることは自明です。ICT 産業界では、さまざまなコンソーシアムや SDO に関心を寄せ参加していることは承知していますが、世界の ICT 標準を勧告化する ITU-T への取り組みにも積極的な参加を期待しています。

— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

(端谷) 富士通に入社 1 年後 (1987 年)、宇宙飛行士が、地上で無重力訓練に使う NASA の特別な飛行機で実験する貴重な体験をいたしました。自身初の海外渡航、輸送品の中には、最新機材や試薬類などがあり、輸出規制をクリアするのに一苦労、また保険をかけようにもどれだけ危険 (45 度の角度で急上昇・下降を繰り返す飛行機ですので) か、保険会社も算定できないなど、出張前から未知への挑戦の連続でした。一人で渡航するも、着いた先はヒューストン郊外、日没が迫る中、予約したアパート (近くにホテルがなかった) の管理事務所にはすでに誰もおらず施錠されていました。携帯電話もない時代、今にして思えば笑い話のネタですが、さまざまなアクシデントをクリアし、無事に微小重力実験を遂行 (添付: 当時の 8mm ビデオから数コマを抜粋) できた経験が、「何事も、挑戦しないと始まらない」という私の信条を形成したのではないかと思います。



機材の点検も、体を浮かせて、このとおり

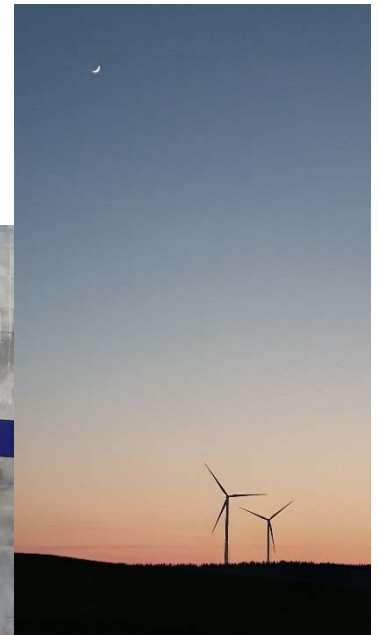


微小重力実験の様子 (NASA, 1987 年)

— 微小重力ではご気分はどうでしたか?

(端谷) 搭乗前に強い酔い止め薬を渡されました。飲むと、微小重力になる前からふわふわとした気分になりました (笑)。機内が微小重力になった瞬間、視線の方向すべてが下に見え、急に空間が広がったような感覚になりました。映画アポロ 13 号で主演したトムハンクスもこの飛行機で撮影したそうです。宇宙飛行士がよく水玉で遊ぶ様子を実演しますが、そういうこともできましたね。微小重力環境での実験様子は、8mm ビデオからコンバートして携帯で持参しています。興味のある方は、ぜひお声をおかけください。

2016年3月からドイツに赴任しており、自宅付近を散策、写真（夕暮れ時の丘の向こうに見える風車）を撮ったり、観光目的で運行している蒸気機関車（Augsburg から Salzburg へ）に乗ったりしています。今後、ドイツ国内はもとより欧州の素晴らしい風景の地を訪ねてみたいですね。



— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

（端谷）スマホは、身近な IoT 機器ですが、インターネットにつながった先には、無数の IoT デバイスが様々な情報を収集し、IoT サービスがビッグデータからデータマイニングや解析をして私たちに意味ある情報を届けてくれます。と、同時にいつでも情報発信源にもなれます。

スマートな社会を作るには、その活用次第であり、その活用の標準化がその手助けをしてくれると思います。ITU-T でそのような活動にかかわりませんか？

文責：（一財）日本 ITU 協会（M）